喜界島方言の動詞・形容詞について

白田 理人

志學館大学

国立国語研究所　共同研究プロジェクト
「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」
平成 30 年度 第 1 回研究発表会「動詞・形容詞 (琉球諸語) 」
2018 年 6 月 17 日

喜界島方言

- 島内に 30 余の集落があり、語彙・音韻論・形態論に渡る方言差がある。
- 本発表では南部の上嘉鉄方言、北部の小野津方言のデータにもとづいて論じる。（データと表記についてスライド 29 参照）

図 1: 喜界島

*国土地理院発行の地図データをもとに Thomas Pellard 氏が作成した地図を適宜加筆・編集して用いている。人口は喜界町役場の資料にもとづく平成 30 年 5 月 1 日現在のものである。

発表要旨

品詞分類について（上嘉鉄）

同じ語根に対して接辞-*sa(R-)* が付いた形式（*sa* 形容詞）と接辞-*ku* が付いた形式（*ku* 形容詞）の２つの形式があり、この２つがコピュラとの共起などに関して異なる振る舞いを示し、別品詞として分析可能である。

動詞形態論について（上嘉鉄）

主節述語に用いる形式として、接辞付与によりテンス／ムード／極性の指定された形だけでなく、名詞・形式名詞との複合や重複などで作られ、（テンス／ムード／極性標示を担う）コピュラ／軽動詞と共起する形式がみられる。

動詞形態音韻論について（小野津・上嘉鉄）

語幹末が有声閉鎖音+短狭母音+r に遡る場合、母音脱落及び子音同化の通時的変化により、共時的にみると不規則な音交替を示す。

1. *sa* 形容詞と *ku* 形容詞
   - 琉球諸語／喜界島方言の形容詞
   - *sa* 形容詞と *ku* 形容詞の相違点
   - 品詞分類
2. 動詞を含む複合・重複
   - 主節述語に用いる動詞
   - 動詞不定形と名詞の複合
   - 意志形の重複
3. 音変化と動詞形態音韻論
   - 音変化の形態音韻論への影響
   - 共時的不規則性とその解消

琉球諸語の形容詞／喜界島方言の形容詞

琉球諸語の形容詞

- 「サアリ活用」と「クアリ活用」（名嘉真 1992）
  —語源（日本語との対応）に基づく活用タイプの分類
  1. サアリ活用：「（語根＋）サ（接尾辞）」＋「アリ（動詞）」
     例） *tahasal*「高い」（奄美大島瀬戸内町古仁屋方言）
  2. クアリ活用：「（語根＋）ク（接尾辞）」＋「アリ（動詞）」
     例） *takakaï*「高い」（宮古島上野宮国方言）
- 「形容詞」の品詞分類（Shimoji 2009・下地 2010・林 2013）
  宮古語の「形容詞」—動詞に準じた活用
  →動詞の下位分類とし、屈折型形容詞を認めない立場も

喜界島方言の形容詞（松本 1986：156）

- サアリ（融合形）／クアリ（非融合形）併用
  例）「高い」*taasai* / *taaku ai*（大朝戸方言）
- “くらべる意味あいのときは*taasa*より*taaku*のほうが好まれる”

語形変化の有無及び状態動詞との共起

sa 形容詞の特徴 1

- テンス・ムードに応じて活用（概ね動詞「ある」*aR-*に準じる）
- 否定・取り立てで状態動詞（補助動詞）*aR-/neE-*と共起

(1) *un iŋŋa-ŋkaa=ya* { *ina-sa.* / *ina-sar-i.* }
この 犬-DIM=TOP 小さい-*sa* 小さい-*sa*-NPST
「この子犬は小さい」

(2) *an sima+thur-aa=ya mai-sa=mu a-n=ŋa*
あの 相撲+取る-NMLZ=TOP 大きい-*sa*=ADD STV-NPST=CC
ču-sa=mu ar-i.
強い-*sa*=ADD STV-NPST
「あの相撲取りは大きくもあるが強くもある。」

(3) *un kase=e ma-sa nee-raa yaa.*
この 菓子=TOP 旨い-*sa* STV-NEG.NPST DSC
「この菓子は旨くないなあ」

語形変化の有無及び状態動詞との共起

ku 形容詞特徴 1

- 活用せず、状態動詞 *aR-/neE-*／コピュラ*ǰa-/aR-*にテンス／ムード接辞が付く。

(4) *un iŋŋa-ŋkaa=ya* { *ina-ku.* / *ina-ku ar-i.* }
この 犬-DIM=TOP 小さい-*ku* 小さい-*ku* STV-NPST
「この子犬は（より）小さい」

(5) *un kase=e* { *ma-ku a-soo.* / *ma-ku ǰa-soo.* }
この 菓子.TOP 旨い-*ku* STV.NPST-MIR 旨い-*ku* COP.NPST-MIR
「この菓子は（より）旨いなあ」

(6) *ina-ku* { *nee-raa.* / *ar-aa.* }
小さい-*ku* STV-NEG.NPST COP-NEG.NPST
「（より）小さくないなあ」

コピュラとの共起

sa 形容詞／ *ku* 形容詞特徴 2

- *sa* 形容詞はコピュラと共起しない。
- *ku* 形容詞はコピュラと共起して述語を成す。

(7) *un kase=e* { *ma-sa-soo.* / **ma-sa ǰa-soo* }
この 菓子=TOP 旨い-*sa*.NPST-MIR 旨い-*sa* COP.NPST-MIR
「この菓子は旨いなあ」

(5) *un kase=e* { *ma-ku a-soo.* / *ma-ku ǰa-soo.* }
この 菓子=TOP 旨い-*ku* STV.NPST-MIR 旨い-*ku* COP.NPST-MIR
「この菓子は（より）旨いなあ」

動詞からの派生

ku 形容詞特徴 3

- *ku* 形容詞は *sa* 形容詞と異なり動詞の非過去形（肯定／否定）からも派生しうる。
- 阿伝集落出身者による語彙集、岩倉（1941）にも文例あり。

(8) *tharoo=ya ǰiroo=kan* *see* { *num-in-ku* / *num-an-ku* }
タカシ=TOP ジロウ=CMPR 酒 飲む-NPST-*ku* 飲む-NEG.NPST-*ku*
doo.
ASRT
「タロウはジロウ｛よりも酒を飲む／ほど酒を飲まない｝よ」

(9) インカ゜ートゥ ウマー ディンカ゜ パシユンクカ。
「犬と馬は何れがより走るだろうか」（岩倉 1941:110）

比較基準の有無

ku 形容詞特徴 4

- *ku* 形容詞を使うと比較基準のある解釈に限定される。
- “一が他より優れている意を表わす”（岩倉 1941:109）

(10) *un gusii=ya { naga-sa(r-i). / #naga-ku (ar-i). }*
この 棒=TOP 長い-*sa*-NPST 長い-*ku* STV-NPST
「この棒は長い」（比較基準がない解釈の場合）

(11) *un iŋŋa-ŋkaa=ya huka=nu mun=kan { ina-sa(r-i). /*
この 犬-DIM=TOP 他=GEN もの=CMPR 小さい-*sa*-NPST
ina-ku (ar-i). }
小さい-*ku* STV-NPST
「この子犬は他のより小さい」

比較基準の有無

ku 形容詞特徴 5

- 比較基準が明示されない場合に *ku* 形容詞を用いると文脈から比較基準が補われて解釈される。

(12) *ču=nu iri-ta-n saa=ya ma-ku.*
人=NOM 入れる-PST-ADN 茶=TOP 旨い-*ku*
「人が入れたお茶は（自分で入れたのより）美味しい」

(13) a. *da=a sima=a ču-sar-i yaa.*
2.SG=TOP 相撲=TOP 強い-*sa*-NPST SFP
「お前相撲強いなあ」

b. *aai da=du ču-ku ǰa-ru.*
RESP 2.SG=FOC 強い-*ku* COP.NPST-DFOC
「いやいや、お前のほうが（私より）強いじゃないか」

khači—形容詞の品詞分類の傍証

khači の特徴

- 動詞 khaT-「勝つ」の不定形（日本語の連用形と歴史的に対応）に由来すると思われる khači という形式がある。
- khači は述語に用いられ「(比較して）より良い」という意味を表し、比較基準のある解釈に限定される。
- khači は屈折せず、状態動詞／コピュラと共起する。

(14) uri=kan uree khači { doo. / ǰa. / ar-i. }
これ=CMPR これ.TOP khači ASRT COP.NPST STV-NPST
「これよりこれが（より）いい（よ)」(二つを比べて)

khači と形容詞の品詞分類

- khači は ku 形容詞と統語的（及び意味的）特徴が共通する。
→ ku 形容詞を khači と同品詞とし、sa 形容詞と別品詞とする分析が支持される。

品詞分類

sa 形容詞／ *ku* 形容詞の形態統語的特徴と品詞分類

(i) 屈折の有無、(ii) 状態動詞との共起、(iii) コピュラとの共起にもとづいて、動詞／ *sa* 形容詞／ *ku* 形容詞／名詞を品詞分類すると以下のようになる。

表 1: 品詞分類

	屈折	状態動詞共起	コピュラ共起
動詞	+	−	−
sa 形容詞	+	+	−
ku 形容詞（及び *khači*）	−	+	+
名詞	−	−	+

1 *sa* 形容詞と *ku* 形容詞
- 琉球諸語／喜界島方言の形容詞
- *sa* 形容詞と *ku* 形容詞の相違点
- 品詞分類

2 動詞を含む複合・重複
- 主節述語に用いる動詞
- 動詞不定形と名詞の複合
- 意志形の重複

3 音変化と動詞形態音韻論
- 音変化の形態音韻論への影響
- 共時的不規則性とその解消

主節述語動詞

- 主節述語に用いる動詞形の記述では、接辞付与によりテンス／ムード／極性が指定された以下表のような形式が中心である。

表 2: 語根 *kham-*「食べる」を含む定動詞形の例

	肯定	否定
命令法	*kham-i*	–
意志法	*kham-a*	–
直説法非過去	*kham-ii*	*kham-aa*
直説法過去	*khad-i*	*kham-an-ti*
推量法過去	*kha-da-ra*	*kham-an-ta-ra*
直説法継続相非過去	*kham-oor-i*	*kham-oor-aa*

- 一方、複合・重複で作られ、テンス／ムード／極性の指定がない形式も主節の述語になることがある。→以降で取り上げる。

動詞不定形と名詞の複合

述語における動詞不定形と名詞の複合形の構造

- 動詞不定形（語幹-*i*）と名詞の複合形が述語として用いられる。
  1. 目的語名詞+他動詞不定形（例 *hon+mir-i* 本+見る-INF）
  2. 動詞不定形+形式名詞 *khata*（例 *ič-i+khata* 行く-INF+FN）

（九州方言について木部 1990・黒木 2016 に類似の報告あり）

(15) a. *da=a* (nama) { *nuu+s-ii* / *nuu s-i+khata* } *yo?*
2.SG=TOP 今 何+する.INF 何 する-INF+FN WHQ
「お前（今）何をしてるの？」（電話で尋ねて）

b. (nama) { *therebi+mir-i* / *wan=kači ič-i+khata* } *doo.*
今 テレビ-見る-INF 湾=ALL 行く-INF+FN ASRT
「(今）テレビ見てるよ／湾集落に向かってるよ」

動詞不定形と名詞の複合

名詞+動詞不定形、動詞不定形+*khata* の「複合語らしさ」

- 動詞不定形は拘束的で、単独では述語になり得ない (16)。
- アクセント上 1 単位（例 [therebi]+mi[r-i、[mir-i]+kha[ta）（α型 (●...) ●○● cf. 上野 2012）
- 有気音 kh[k^h] は語根初頭に限られる。（← *ikhata* ≠接辞）
- 前部要素の名詞のみを修飾できる (17)。（←複合語らしくない）

(16) *nama* { **mir-i* / *mir-i+khata* } *doo.*
今 見る-INF 見る-INF+FN ASRT
「今見てるよ」（昨日買った本をどうしたか聞かれて）

(17) *čiyuu hoo-ta-n* *hon+mir-i* *doo.*
昨日 買う-PST-ADN 本+見る-INF ASRT
「昨日買った本見てるよ」

動詞不定形と名詞の複合

名詞+動詞不定形、動詞不定形+*khata* の用法

- 基本的に以上の例のように発話時に進行中の事態を表す。
- 文脈／動詞によっては発話時以降に成立する事態も表しうる。

(18) a. *da=a nama=kara nuu s-i-su yo?*
2.SG=TOP 今=ABL 何 する-NPST-NMLZ WHQ
「お前これから何するの？」

b. *ama=nu hatee=ǰen hara+wii-i doo.*
あそこ=GEN 畑=LOC 芋づる+植える-INF ASRT
「あそこの畑で芋づるを植えるよ」

(19) *thakase=e naanamma wii=kači tuč-i-khata doo.*
タカシ=TOP もうすぐ 上=ALL 着く-INF-*khata* ASRT
「(山登り中に) タカシはもうすぐ上に着くところだよ」

動詞不定形と名詞の複合

名詞+動詞不定形、動詞不定形+*khata* の用法

- 存在動詞の不定形と *khata* の複合形は、ミラティブな文脈で用いられる。

(20) *čiyuu thumee-yoo-ta-n muno=o umaa=en ar-i+khata.*
昨日 探す-PROG-PST-ADN もの=TOP ここ=DAT ある-INF+FN
「昨日探していたものはここにあった」

(21) *akira=a ǰa=i i-ǰa=ka=ten umi-riba=a umaa=en*
アキラ=TOP どこ=ALL 行く-PST=Q=QUOT 思う-COND=TOP ここ=DAT
ur-i+khata.
いる-INF+FN
「アキラはどこに行ったかと思えばここにいた」

動詞不定形と名詞の複合

名詞+動詞不定形、動詞不定形+*khata* とコピュラの共起

- 複合形は屈折せず、コピュラと共起して、テンス／ムード／極性などが標示される。

(22) a. *da=a* *saače=e* { *nuu+s-ii* / *nuu* *s-i+khata* } *a-ti*
2.SG=TOP さっき=TOP 何+する.INF 何 する-INF+FN COP-PST
yo?
WHQ
「お前さっき何してたの？」

b. { *simbun+mir-i* / *wan=kači* *ič-i+khata* } *a-tan* *doo.*
新聞-見る-INF 湾=ALL 行く-INF+FN COP-PST ASRT
「新聞見てたよ／湾集落に向かってたよ」

動詞不定形と名詞の複合

(23) a. *akira=a therebi+mir-i na?*
アキラ=TOP テレビ+見る-INF YNQ
「アキラはテレビ見てるの？」

b. *aai are=e therebi+mir-e=e ar-an doo.*
RESP あれ=TOP テレビ+見る-INF=TOP COP-NEG.NPST ASRT
「いや、彼はテレビ見てはいないよ」

(24) a. *thakase=e hasi-i+khata na?*
タカシ=TOP 走る-INF+FN YNQ
「タカシは走ってるの？」

b. *aai are=e hasi-i+khata=a ar-an doo.*
RESP あれ=TOP 走る-INF+FN=TOP COP-NEG.NPST ASRT
「いや、彼は走ってはいないよ」

意志形の重複

意志形の重複形の特徴

- 動詞の意志形（*-Ra*）の重複形が述語に用いられ、「〜しかける、（今にも）〜しそうだ」（prospective aspect）を表す。
- アクセント上 1 単位でα型（例 [mir-a~]mi[ra ）
- （随意的に）コピュラまたは軽動詞 *s-*と共起し、テンス／ムードなどが標示される。

(25) *ami=nu hur-a~hura (s-o-n) doo.*
雨=NOM 降る-PROSP〜PROSP LV-PROG-NPST ASRT
「雨が今にも降りそうだよ」

(26) *an ka=a nak-a~naka { ǰa-soo. / s-oo-soo }*
あの 子=TOP 泣く-PROSP〜PROSP COP.NPST-MIR LV-PROG.NPST-MIR
「あの子は今にも泣きそうだなあ」

意志形の重複

(27) *thoori-ra~thoorira s-en dusi kam-en doo.*
倒れる-PROSP~PROSP LV-MED 友 掴む-MED ASRT
「転びかけて友達を掴んだよ」

(28) *an čo=o yeiga mir-aanuu nak-a~naka s-oo-ti.*
あの 人=TOP 映画 見る-SIM 泣く-PROSP~PROSP LV-PROG-PST
「あの人は映画を見て泣きそうになっていた」

(29) *nama see num-a~numa s-oo-tan doo.*
今 酒 飲む-PROSP~PROSP LV-PROG-PST ASRT
「今酒を飲もうとしていたよ」

1 *sa* 形容詞と *ku* 形容詞
- 琉球諸語／喜界島方言の形容詞
- *sa* 形容詞と *ku* 形容詞の相違点
- 品詞分類

2 動詞を含む複合・重複
- 主節述語に用いる動詞
- 動詞不定形と名詞の複合
- 意志形の重複

3 音変化と動詞形態音韻論
- 音変化の形態音韻論への影響
- 共時的不規則性とその解消

音変化の形態音韻論への影響

短狭母音+r の変化（上野 1993・木部ほか 2011 の語例から）

- 短狭母音+r：母音脱落／子音同化
  「枕」*makura > *makka*（小野津／上嘉鉄）、
  「クジラ」*kuzira > *kujja*（小野津）、*kuňja*（上嘉鉄）、
  「油」*abura > *abba*（小野津）、*amba*（上嘉鉄）

形態音韻論的交替への影響（上野・西岡 1994 の語例から）

- 動詞語幹末にも適用
  「被る」*habbyui*「被っている」*hattui*、
  「眠る」*nibbyui*、「眠っている」*nittui*、
  「握る」*ňiŋŋyui*「握っている」*ňincui*、
  「削る」*hizzui*、「削っている」*hiccui*（以上、小野津）
  「被る」*hambii*、「眠る」*nimbii*、
  「握る」*ňiňňii*、「削る」*hiňňii*（以上、上嘉鉄）

音変化の形態音韻論への影響

表 3: 語幹末が *b*・*ŋ*・*ǰ*の動詞と対照例（小野津）

意味	祖形	語幹末	否定	非過去	中止・過去
飛ぶ	*tob-	b	*thub-aa*	*thub-yui*	*thu-di*
被る	*kabur-		*habb-aa*	*habb-yui*	*hat-ti*
眠る	*nebur-		*nibb-aa*	*nibb-yui*	*nit-ti*
括る	*kubir-		*kubb-aa*	*kubb-yui*	*kuč-či*
漕ぐ	*koŋ-	ŋ	*huŋ-aa*	*huŋ-yui*	*hu-ǰi*
巡る	*meŋur-		*mïŋŋ-aa*	*mïŋŋ-yui*	*mïn-ti*
握る	*niŋir-		*ňiŋŋ-aa*	*ňiŋŋ-yui*	*ňiň-či*
滾る	*taŋir-		*taŋŋ-aa*	*taŋŋ-yui*	*taň-či*
削る	*kezur-	ǰ	*hiǰǰ-aa*	*hiǰǰ-ui*	*hič-či*
売る	*ur-	r	*ur-aa*	*u-yui*	*u-ti*
見る	*mi-	y	*miy-aa*	*mi-yui*	*mi-či*

共時的不規則性とその解消

音変化による形態音韻論の複雑化（小野津方言）

- 共時的には否定形・非過去形の語幹末音が同じ（b/ŋ）でも、中止形・過去形における交替が異なる動詞が生じている。
- 新たな語幹末音（ǰ）を持つ動詞が生じている。

不規則性の解消（上嘉鉄方言）

- 類推的変化によって、不規則性が一部解消された例がある。

表 4: 語幹末が *b* の動詞（上嘉鉄）

意味	祖形	否定	非過去	過去
飛ぶ	*tob-	*thub-aa*	*thub-ii*	*thu-di*
被る	*kabur-	*hamb-aa*	*hamb-ii*	*han-di*
眠る	*nebur-	*nimb-aa*	*nimb-ii*	*nin-di*
括る	*kubir-	*kumb-aa*	*kumb-ii*	*kuč-či*

まとめ（要旨再掲）

品詞分類について（上嘉鉄）

同じ語根に対して接辞-*sa(R-)* が付いた形式（*sa* 形容詞）と接辞-*ku* が付いた形式（*ku* 形容詞）の２つの形式があり、この２つがコピュラとの共起などに関して異なる振る舞いを示し、別品詞として分析可能である。

動詞形態論について（上嘉鉄）

主節述語に用いる形式として、接辞付与によりテンス／ムード／極性の指定された形だけでなく、名詞・形式名詞との複合や重複などで作られ、（テンス／ムード／極性標示を担う）コピュラ／軽動詞と共起する形式がみられる。

動詞形態音韻論について（小野津・上嘉鉄）

語幹末が有声閉鎖音+短狭母音+r に遡る場合、母音脱落及び子音同化の通時的変化により、共時的にみると不規則な音交替を示す。

データと表記

- データについて
  本発表で示したデータは、小野津集落出身・在住の女性 3 名（S10 生, S12 生, S20 生）、上嘉鉄集落出身・在住の女性 3 名（T12 生, S13 生, S19 生）・男性 3 名（S4 生, S11 生, S35 生）から得られたものである。なお、データ（及び分析の一部）は以下ですでに出版したものを含む。
  - 白田理人（2015）「喜界島上嘉鉄方言の動詞形態論」『琉球の方言』39: 11-31.
  - 白田理人（2016）「奄美語喜界島上嘉鉄方言のテンス・アスペクト・モダリティ」『琉球諸語記述文法』3: 47-74.
  - 白田理人（2017）「鹿児島県喜界島小野津方言」『文化庁委託事業報告書 平成 28 年度 危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究』pp.1-27, 琉球大学国際沖縄研究所.
- 表記について
  先行研究の語例を含め、発表者の解釈による音素表記を用いている。音声実現と表記が異なるものは以下の通りである。
  p [p~p͡ʔ], ph [pʰ~p͡ɸ], t [t~t͡ʔ], th [tʰ], k [k~k͡ʔ], kh [kʰ], c [ts], č [tɕ], z[(d)z], ǰ [(d)ʑ], s [s/ɕ], n [n/m/ɲ/ŋ/ɴ/ɯ̃], ň [ɲ], r [ɾ]

略号一覧

2: second person 二人称, ADD: additive 添加, ADN: adnominal 連体形, ALL: allative 方向格, ASRT: assertive 断定, CC: coordinate conjunction 等位接続, CMPR: comparative 比較, COND: conditional 条件, COP: copula コピュラ, DAT: dative 与格, DFOC: defocus 脱焦点, DIM: diminutive 指小辞, DSC: discourse marker 談話標識, GEN: genitive 属格, INF: infinitive 不定形, LOC: locative 所格, LV: light verb 軽動詞, MED: medial 中止形, NEG: negative 否定, NMLZ: nominalizer 名詞化, NOM: nominative 主格, NPST: non-past 非過去, POL: polite 丁寧, PROG: progressive 継続, PROSP: prospective 将然, PST: past 過去, Q: question 疑問, QUOT: quot 引用, RESP: response 応答表現, SFP: sentence final particle 文末助詞, SG: singular 単数, SIM: simultaneous 同時形, STV: stative verb 状態動詞, TOP: topic 主題, WHQ: wh-question 疑問視疑問, YNQ: yes-no question 諾否疑問, -: 接辞境界, =: 接語境界, +: 複合境界, ~: 重複境界

謝辞

- 本研究のための調査にあたり、以下の研究助成を受けている。JSPS 科研費 15J02695・16K21248 、国立国語研究所「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」プロジェクト（代表 木部暢子）、平成 28 年度文化庁委託事業「危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究」（代表 石原昌英）

- また、本研究は、以下の学会、研究会での発表内容の一部にデータの追加、分析の再検討を行ったものである。「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」研究発表会（2014 年 9 月 15 日、国立国語研究所）、第 98 回京都大学言語学懇話会（2015 年 7 月 11 日、京都大学）、第 65 回言語記述研究会（2015 年 9 月 27 日、京都大学）、日本本言語学会第 151 回大会（2015 年 11 月 28 日、名古屋大学）、第 9 回琉球諸語研究会ワークショップ（2016 年 3 月 18 日、琉球大学）、平成 28 年度文化庁委託事業「危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究」東京報告会（2017 年 2 月 19 日、琉球大学東京オフィス）

参考文献

- 岩倉市郎（1941）『喜界島方言集』東京：中央公論社.
- 上野善道（1993）「喜界島方言の体言のアクセント資料」『アジア・アフリカ文法研究』21, 41-160.
- 上野善道（2012）「琉球喜界島方言のアクセント—中南部諸方言の名詞—」『言語研究』142, 45-75.
- 上野善道・西岡敏（1994）「喜界島方言の用言のアクセント資料」『アジア・アフリカ文法研究』22, 161-312.
- 木部暢子（1990）「鹿児島方言の語法—「カタ」と「ジ」—」『筑紫語学研究』1, 65-71.
- 木部暢子・窪薗晴夫・下地賀代子・ローレンスウエイン・松森晶子・竹田晃子（2011）『国立国語研究所共同研究報告 11-01 消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究：喜界島方言調査報告書』東京：国立国語研究所.
- 黒木邦彦（2016）「北薩方言の複合不完成相と抱合不完成相」『トークス』19: 29-41.
- 下地理則（2010）「琉球諸語に活用型形容詞は存在するか?—伊良部島方言の場合—」『国際沖縄研究』 1(2), 41-51.
- 名嘉真三成（1992）『琉球方言の古層』第一書房.
- 林由華（2013）『南琉球宮古語池間方言の文法』京都大学博士論文.
- 松本泰丈（1986）「形容詞の語形のタイプから—喜界島方言のばあい—」『国文学解釈と鑑賞』51(8), 153-160.
- Shimoji, M.（2009）The Adjective Class in Irabu Ryukyuan. *Studies in the Japanese Language,* 5(3), 33-50.